

広報

# わかさ

Public Relations Wakasa

あけまして  
おめでとうございます



別府野猪

1

2007

No. 21

# 新春対談

吉田 久吉さん

百田 吉江さん

清水千枝子さん

下島 芳和さん

千田千代和町長

井口 一男議長

4月21日にパレア若狭の音楽ホールや図書館がオープンし、大勢の人が訪れています。そこで、文化関係で活動されている北前川の吉田久吉さん、藤井の百田吉江さん、上野木の清水千枝子さん、末野の下島芳和さんと、千田町長、井口議長が「文化の華を咲かせよう」をテーマに話し合いました。司会進行は杉谷教育長です。

# 文化の華を

## 町長

新年あけましておめでとうございます。平成18年4月21日にパレア若狭の音楽ホールや図書館がオープンしました。12月現在で約15万人の方が来館されています。順調にスタートしましたが、これからパレア若狭を文化の拠点として、皆さんと一緒に取り組んでいきたいと思っています。

## 議長

新年あけましておめでとうございます。パレア若狭がオープンした時は、どれだけの人に来ていただけるか心配もありましたが、たくさんの人でにぎわっていてうれしく思っています。今後、市民の文化が向上するよう期待しています。

## パレア若狭を利用した皆さんのご感想は

### 百田

昨秋に、嶺南(敦賀から高浜)の各合唱団が集まって、WCA(若狭合唱協会)の合唱祭がありました。パレア若狭は嶺南地域の中間にあるので、集まりやすく、素晴らしいピアノと施設のもとで合唱を披露しました。参加された合唱団の皆さんには、音響や雰囲気も良く、またここで歌わせてほしいと、喜んでいました。

### 清水

昨秋に、野木地区女性の会主催のイベントがパレア若狭で開催され、太鼓を演奏させていただきました。私は約10年間、野木紅太鼓の一員としていろいろな会場で演奏させていただきましたが、パレア若狭のホールは音響が素晴らしい、自分たちが急にうまくなったように思えました。素晴らしい体験ができ、すごくうれしかったです。

# 咲かせよう



吉田

若狭町文化協会は、昨年から両地域が一緒に活動する第一歩を踏み出しました。パレア若狭がオープンしたので、協会としても文化の拠点として利用しています。

下島

私はパレア若狭の運営などに携わるサポートをしています。サポーターは、今、50人ほどいてホールや図書館のお手伝いをしています。ホールのサポーターは、出演者や演奏者が舞台に専念できる環境づくりを心がけています。

## 利用者のマナー

吉田

サポーターの皆さん方が指導してくださるおかげで、演奏中に飲食や会話をしてはいけないなど、観客のマナーが身についてきています。これもパレア若狭ができたら学べたことだと思います。

下島

良いホールというのは、出演者もスタッフもお客様も質が高いんです。一番大事なことなんですが、若狭町は芸術文化にはなじみの少ない地域だったので、ホールで飲み物を飲んだりいげないことを知らない方もいます。スタッフも言葉遣いからすべて学ばなければいけませんし、地元の出演者も出演するたびに少しづつ質が上がっていくと思っています。

吉田

昨秋はパレア若狭で若狭町文化祭を開催しました。以前、公民館で開催していく時は、興味がある芸能発表しか鑑賞しなかったり、家族が終

わると帰ったりと、ざわざわしていましたが、そういう点では昨秋の文化祭は、あまりなかったように思います。若狭の人たちに芸術文化を鑑賞するマナーが少しづつ付いてきているなと感じました。

## 子どもは持っている、鋭い感受性を

吉田

子どもたちにも良い芸術文化に大いに触れさせてあげたいです。本格的なホールで本格的な音楽を聞いて、マナーも次第に身についていくと期待しています。子どもの感受性は想像以上に鋭く、その感動は脳裏に深く刻まれて、大人になっても生き生きとしていることがよくあります。

清水

ホールは出演者と観客との距離も近く、観客の反応がよく分かります。鑑賞するだけでなく、子どもたちも出演できると、さらに感受性が伸びていくのではないかと思います。

吉田

子どもが出演すると、その保護者や家族にも共感していただけたり、それに付けて他のジャンルも含めて若い世代の文化の華もどんどん開いていくといいですね。

司会

昨年の縄文まつりには、野木地区の子どもなど、たくさんの方々が縄文口マンパークの舞台に立っていました。そういう機会をたくさん作ってあげることが、町民の一体感が湧くひとつになっていくのではないかと思います。



千田 千代和町長(鳥浜)  
若狭町長

しもじま よしかず  
**下島 芳和さん(末野)**  
パレアボランティアスタッフ「PaBoS(パボス)」代表



## 清水

縄文まつりで、野木地区の子どもたちと一緒に演奏させていただきました。子どもたちも舞台へ出られるという目標があったので、目を見張る成長がありました。これからも、このような機会をどんどん増やしていくといいなと思います。

## 司会

パレア若狭でも、有名な万ばかり呼んできて鑑賞するだけでなく、自分たちが舞台に立ち、発表するという機会が持てるようになったので、地元の団体もたくさん活用してほしいですね。

## 若狭に数多く残る伝統文化

### 吉田

昨年の縄文まつりで、若狭町にある踊りをみんなで踊るうと、三万音頭や上中音頭などを踊りました。町には踊りのほかにも、伝統的な文化がたくさん残っています。その文化を皆さんに普及できたらなと思っていますし、さらに子どもたちに継承できるといいなと思っています。

### 町長

パレア若狭の催し物だけではなく、町には素晴らしい伝統文化がありますし、これは地域の



パレア若狭で開催された小中学校音楽会

皆さんのご協力をいただきながら後世に残していく力なくてはなりません。特に伝統的な例祭などは、全国的に見ても若狭地方にたくさん残っているみたいで、若狭地方にしかないものもあります。その伝統文化をどのように受け継いで守っていくかが大事ですし、大変だと思います。

### 議長

伝統文化を継承することはほど難しいことはありません。地域全体が理解し、支えるという気持ちがなければ継承できないと思います。そしてサポートしていくのが、行政であり文化協会だと思います。

### 吉田

町には王の舞、愈座能、六斎念仏など伝統文化がたくさんありますが、まだ私たちが知らないものがあると思います。町内にどういう伝統文化があるかという調査も大事です。そしてできれば、民俗文化祭のようなイベントを開催できないかなと思っています。

### 町長

いい案ですね。

### 清水

各地域のいろいろな伝統行事などを見られる



チケットのもぎり練習をするサポーター



井口 一男  
議員(田井野)  
若狭町議会議長

しみず　ちえこ  
清水千枝子さん(上野木)  
野木紅太鼓代表



のは素晴らしいですね。

#### 吉田

民俗文化祭を開催するなら、諏訪地域や全国的に有名な方にも来ていただき、そこに若狭町の伝統芸能も参加するという形で始めないと、町だけではいきなりはできないと思います。出演していただける人にもお馴染みにいかなくてはなりません。

#### 郷土の祭りは人をふるさとに帰す力がある

#### 町長

若狭地方の伝統文化には、地元の人より、県外の人人が興味を持っていると感じています。

#### 議長

数十年前に、大阪府吹田市のホールのこけら落しに、私の住んでいる田井野の子ども太鼓が招かれて演奏しました。すると観客に、このような芸能を見るのは初めてだと言われ、とても人気があったことを覚えています。

#### 百田

都会はない伝統芸能ですかね。



繩文まつりでは野木小児童が紅太鼓と共演

#### 清水

私は愛媛県出身ですが、太鼓を始めるきっかけは子どもの時にありました。ふるさともお祭りが盛んで、必ず太鼓がありました。小さい時から太鼓の音が体に染み込んでいたこともある。若狭町へ来ても、地域のお祭りや伝統文化などに興味がありました。確かに継承していくことは難しくなってきていますが、子どもの時に見たり聞いたりしたことは絶対に残っていると思います。

#### 町長

子どもの時に覚え込んだことで、たとえ地元を離れても、街を重ねると、また田舎へ帰りたいという思いが残ってくると思います。

#### 清水

懐かしくなって、主人とふるさとの祭りを見に帰ったことがあります。

#### 議長

田井野では昔から子ども太鼓をしていますが、私も小さい時に太鼓をおわいおことを、いまだに覚えています。その懐かしさや染み込んだものが、ふるさとに帰ろうかなという気持ちのひとつになっていると思います。



パレア若狭で開催された昨年の文化祭



もとお よしだ  
百田 吉江さん(藤井)

女性コーラス「コロボックル」のメンバー  
「のこすことは文学賞」実行委員



よしだ よしあさみ  
吉田 久吉さん(北前川)

若狭町文化倶楽部会長

みかた童謡唱歌を歌う会「わらべ」の指導者

### 下島

朱野にも浪生祭という伝統行事があります。あ正月とあ盆は帰って来ないが、その祭りだけは帰ってくるという人がいます。やはり子どもたちからある地区の祭りは心に残っているようです。

### 吉田

そういう伝統をなんとかして継承していく、残していく、若い人などが次々につなげていくことは大事です。

## 文化の拠点としての役割は

### 吉田

せっかくいい施設ができたので、パレア若狭が文化の拠点として、たくさん的人に活用してもらうには、町民の皆さん気が軽に行けるように交通面を考えていくだけだと助かります。

### 町長

交通面は、パレア若狭だけでなく、病院も含めて検討中です。合併後、両地域をつないでいるものはJRしかなく、交通網の見直しをしています。三方駅を起点として、レイクヒルズ美方病院や三方庁舎、国道27号線を通じて、パレア若狭や上中病院、上中庁舎などを経由し、上中駅まで巡回するバスを、今年2月ごろから試行しようと計画を進めています。

### 吉田

若狭町の皆さん、用事がなくてもできるだけパレア若狭に足を運んでいただくといいなと思います。パレア若狭へ行くと、いつも絵画などが展示されているたり、演奏しているたり、合唱したりして、楽しめる場所になってほしいです。

和室もあるし、陶芸をしているし、どなたでも活用できるような施設になればと思います。そのためには、こんなこともできます、あんなこともできますというPRが必要なことと、パレア若狭までの交通手段があればいいなと思います。そして、町民の皆さん利用することで、新しい芸術文化がパレア若狭から生まれてくることを期待しています。

### 下島

私は、町内の演奏者などが集まったコンサートができたらなと思っています。町民の使用料もすごく安いので。

### 清水

アマチュアのバンド演奏もいいですね。パレア若狭を若い人たちの交流の場として活用してほしいですね。そういう場が、町の融和につながってほしいです。

### 下島

文化には境界線はありません。パレア若狭で活動することで、またサポーターにもっと三方の人に入ってきていただくことで、若い世代から仲良くなれるといいですね。

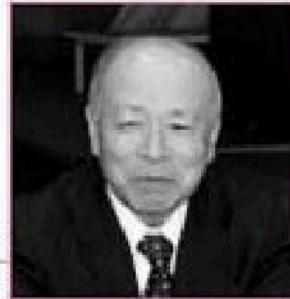
### 百田

音楽ホールのほかにも、パレア若狭内の図書室には児童書が多くそろっているので、子どもたちの知的な想像力をアップに活用していけたらいいなと思います。

## 生きがいの発信基地として

### 下島

子どもに豊かな感性を養ってもらうことは、



すぎたに まさみ  
**杉谷 正美**教育長(臨袋)  
若狭町教育委員会教育長

ゆくゆく返ってくることなので、20、30年後を見据えると、今からどんどん子どもたちにも利用してほしい。豊かな心を育んでくれるような施設になってほしいです。

#### 百田

町民一人ひとりが、刺激と感動を共有して、みんなの豊かな生きがいの発信基地としてパレア若狭が存在していってほしいです。子どもたちにとっても、ホールで歌えるという大きな目標が、練習意欲につながったり、生きがいになったりすると思います。

#### 町長

体育馆や音楽室などで歌うのとは、音響はもちろん雰囲気が違うと思います。

#### 議長

なんといっても利用することだと思います。会議室も含めて、施設内が利用者でいっぱいになるように、町全体で盛り上げていくことが一番だと思います。それが、若狭町の発展にもつながるし、融和にもつながると思います。

#### 町長

芸術文化、伝統文化など、文化にはいろいろあります。何らかの形で文化にかかわるということは、ひとつめの夢を追うことだと思います。夢を追うということは、人生を楽しくするもので、自分の生き方として大事なことだと思います。芸術文化をパレア若狭で鑑賞する機会も増えましたし、町には若狭にしかない素晴らしい伝統文化もあります。すべての文化の華が開くような取り組みを町民の皆さんと一緒にていきたいと思います。

**新しい芸術文化がパレアから生まれることを期待。**  
(吉田)

**町民一人ひとりが刺激と感動を共有して。**  
(百田)

**文化に境界線はない。**

(下島)



# わかりたい、わかってあげたい、助けたい 認知症の人の笑顔を見るために。

誰もが、たとえ認知症になってしまっても、その人らしく暮らせるまちづくりのために、何をしたらいいのか、何ができるのかと一緒に考えてみませんか——「認知症ケアからはじめるまちづくりフォーラムわかさ」を、12月9日にパレア若狭音楽ホールで開催しました。認知症の人を支援する人、認知症の人を介護している人、認知症のことはあまり分からなければ気になる人など約500人が来場。会場から溢れだ多くの参加者は、音楽ホールホワイエのモニターテレビで聴講するなど、認知症に対する関心が高いことを感じさせました。まちづくりの基本理念である「笑顔でずっと住み続けたいまち」「互いに生きあうまち」「みんなで創り育てるまち」。認知症ケアにも同じことが言えるのではないかでしょうか。



◎基調講演

## 「夫の代わりはおりまへん。」から7年

——いま、認知症ケアとまちづくりに思うこと

講師 江村 利雄 さん



大阪府行職員を経て、昭和59年に大阪府高槻市長に就任。認知症の妻の介護に専念したいと、『期日の任期を1年残して、平成11年4月に市長を辞任。平成18年3月に妻が亡くなるまでの7年間、在宅介護。高槻市在住、82歳。若狭町と高槻市は姉妹都市。

## 介護は完璧ではなく、ほどほどに

は、認知症は、

妻は骨粗鬆症だった。ある日、足の骨に亀裂が入つて寝たきりになった。寝たきりになつて4か月後くらいに認知症が始まつた。どうしたらいいと医者に聞いた。同じ土俵の上で自縛を

いたら、同じ土俵の上で自縛を合させてしゃべれと言われた。

市長を辞めて、専属で嫁さんの面倒を見て、その結果をみんなに言わうと思った。こんなし

た方がええで、あんなんした方がええでと言つてあげられる方が、市長をしているより、よっぽどいいと思った。それで辞める決心をした。病院から家に連れて帰つて、2日くらいで介護地獄になります

わ、介護生活が始まつてます

こと、赤ちゃんは、オムツを替えると渴つて、大人の足は重くて思

うように交換できません。濡れないようにおムツ交換ができるまでに3ヶ月もかかった。突然やつてくる寝たきり生活のため、元気な今のうちに夫婦でおムツ交換の練習をしてみるとか、一緒にお風呂に入つて介護できるかどうかの練習をしておくとええですよ。

今日みんな笑つたけど、笑うというのは認知症の予防です。笑わすような話をすると認知症にならない。なつても進まない。介護というのは、完璧にしようとと思うと長続きしません。皆さん「ほどほど」という言葉を

うとうとします。特に認知症の人の会話をすます。特に認知症の人の会話をするとか、話を聞くときに、自縛を合わせて、ほどほどでやつているのが一番いい。介護を家族で当番制にして、ゴルフや飲みにも行きました。自分の心を適度に交換できません。おかなこと、どうにもならない。完璧にと言わざ、ほどほどに介護ができるような技量を持ちなはれ。

◎認知症一行詩コンクール

【一般の部】

◇最優秀賞

雪降る夜に見舞つても「田植えすんだか」と心配してくれた母  
半世紀私の親であります。これからは私があなたのかあさんですよ

砂原恵美子(新山)

◇優秀賞

名前も道も忘れないよ いっぱいのサブーターがいる あなたの町  
くり返してでてくる言葉に あたたかくやさしい返事を何度も

橋本ひとみ(佐賀県)

◇入選

身に合った小さな趣味に仕事草 引き出しましよう 話しましょう  
遠慮せんといて あなたにもらつた愛をボツボツ返してじるむ」やから

市野千尋子(三万)

◇佳作

風呂敷にタオル一杯包み込み 家に帰ると背負い歩みぬ  
遠慮せんといて あなたにもらつた愛をボツボツ返してじるむ」やから

河村アカミ(新田)

◇佳作

風呂敷にタオル一杯包み込み 家に帰ると背負い歩みぬ  
遠慮せんといて あなたにもらつた愛をボツボツ返してじるむ」やから

三宅政江(佐古直)

◇佳作

風呂敷にタオル一杯包み込み 家に帰ると背負い歩みぬ  
遠慮せんといて あなたにもらつた愛をボツボツ返してじるむ」やから

古澤ヤス子(藤井)

◇佳作

風呂敷にタオル一杯包み込み 家に帰ると背負い歩みぬ  
遠慮せんといて あなたにもらつた愛をボツボツ返してじるむ」やから

辻本靖(兼田)

◇佳作

風呂敷にタオル一杯包み込み 家に帰ると背負い歩みぬ  
遠慮せんといて あなたにもらつた愛をボツボツ返してじるむ」やから

小原志穂(三万中学校2年)

◇最優秀賞

わかりたい わかつてあけたい 助けたい 認けたい 認知症の人の笑顔が見たい  
今まで教えてもらつたから 今度は教えてあげる  
サポーター 私がなります オレンジリング

安井清恵(三万中学校3年)  
栗本利奈(三万中学校1年)  
橋詰由希(三万中学校3年)

◇優秀賞

あなたが私を忘れても 私はあなたをわすれやしない  
不安にさせない 思いこまない 一人一人をみんなで守ろう  
おばあちゃん ずっと長生きしてね 私がずっと支えるから

田中理多(三万中学校1年)  
今川有紀(三万中学校1年)  
柏野直喜(三万中学校3年)

◇入選

忘れられても 忘れちやいけない家族の絆  
あなたの笑顔を咲かすため あなたの一部になりたいよ  
おじいちゃんの気持ち おばあちゃんになつたら分かるかな  
助けたい 一人の認知症サポーターとして

山口夏実(三万中学校2年)  
中辻唯(三万中学校3年)  
田谷翔太(三万中学校1年)  
伊達冬美(三万中学校1年)

◇佳作

認知症 一人でかかえず みんなで支え合う  
認知症 笑つて歩いて防ごうよ  
あなたが記憶をなくしても みんなはあなたを覚えてる  
認知症 囲りの人が杖となる

河村知穂(三万中学校1年)  
三宅佳絵(三万中学校1年)  
浜瀬理恵(三万中学校1年)

認知症一行詩コンクールでは、9月から作品を募集し、10月31日までに一般の部129点、中学生の部725点の応募がありました。11月28日に三方保健センターで審査し、入賞した作品を会場で表彰、ピアノ伴奏に合わせて朗読しました。作品は、審査ホールホワイエにも展示しました。

認知症一行詩コンクールでは、9月から作品を募集し、10月31日までに一般の部129点、中学生の部725点の応募がありました。11月28日に三方保健センターで審査し、入賞した作品を会場で表彰、ピアノ伴奏に合わせて朗読しました。作品は、審査ホールホワイエにも展示しました。



コンクールの表彰式



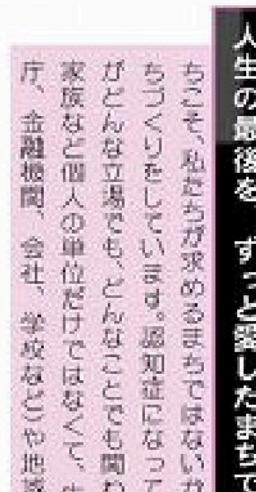
トワイニ賞  
大賞作品を贈呈

江村 利雄さん  
バネルディスカッション  
会議家

元大阪府高槻市長

## おしゃべりヘルパーになつて

今日はここへ来て感心しました。私はいろんな所へ話をしに行くが、認知症に関する「ただの」人が集まつて討論されることもある。その中で、私が育つて育つて、これが、全国でつながる「おしゃべりヘルパー」になつて、認知症になつても暮らせるまちを実現するには、住民がどんな立場であらうとも関わつていける仕組みつくりが大切です。家族など個人の単位だけではなくて、生活に関わるあらゆる職域の店舗、官公署、金融機関、会社、学校など)や地域住民すべての理解と支援が必要です。



人生の最後を、ずっと愛したまちで

「死にがないのあるまち」。人生の大成をそこで過ごして、最後ここで死んでいきたいと思えるまちで、「私たちは求めのまちではないが、いろいろな形で連携していきます。認知症になつても暮らせるまちを実現するには、住民がどんな立場であらうとも関わつていける仕組みつくりが大切です。家族など個人の単位だけではなくて、生活に関わるあらゆる職域の店舗、官公署、金融機関、会社、学校など)や地域住民すべての理解と支援が必要です。

◎パネルディスカッション テーマ「認知症を地域で支えていくために～今までとこれから～」

## 認知症になつても、支えてく

今日はちょうど10年前、アロイス・アルツハイマー博士が初めてアルツハイマー病を発表した記念すべき日です。アルツハイマーがこのパネルディスカッションを見守り、ひそかに笑つかるお顔がまわる。認知症はむじく大問題の病気。現代社会は、ひもと結ぶひもの「コミュニケーション」がうまくついていない。脳の中のコミュニケーション障害なんですね。認知症は、脳の中の繋がりがほしい状態。不思議なことに、社会の絆を治すことが認知症の対応になります。その人たちが「おしゃべりヘルパー」になつて、認知症の予防に努めたらええやないか、と。何もないで家にあつたり、必ず認知症になる可能性があります。誰でも認知症になる「素質」はある。その素質を早くつかまえて、早く手当をせんといひかんと思います。

みんな仲良くなつて

今日はちょうど10年前、アロイス・アルツハイマー博士が初めてアルツハイマー病を発表した記念すべき日です。アルツハイマーがこのパネルディスカッションを見守り、ひそかに笑つかるお顔がまわる。認知症はむじく大問題の病気。現代社会は、ひもと結ぶひもの「コミュニケーション」がうまくついていない。脳の中のコミュニケーション障害なんですね。認知症は、脳の中の繋がりがほしい状態。不思議なことに、社会の絆を治すことが認知症の対応になります。その人たちが「おしゃべりヘルパー」になつて、認知症の予防に努めたらええやないか、と。何もないで家にあつたり、必ず認知症になる可能性があります。誰でも認知症になる「素質」はある。その素質を早くつかまえて、早く手当をせんといひかんと思います。

五井 順さん  
コーディネーター  
区教育委員会事務局長

若狭町教育委員会事務局長

安心して自宅介護ができるよう

ある日突然、義母が自分で服を着ることができなくなりました。本筋にて、認知症についてものを論では理解していくしかねば、突然やつてきました介護生活にとほどしまして。90歳まで生きて、昭和、大正、昭和、平成と激動の時代を歩んできた義母に、娘の私は到底太刀打ちできませぬでした。ひとりの女性の精神とともに裸の部分を見おこして、「うしきがいも感じほし」とおじいも感じほし。認知症になつても、尊厳といつものままであります。生き方の要請となり入に伝えなくてはならぬことじとじめ、必ず医薬の裏にあります。介護してどうぞ、緊急のときとかちよつとしたときに、つまづきが多い。そういうときにや社会の支えがあつて、家族が安心して自宅介護ができる時代が来るといつて思ひます。

森村 敏子さん  
バネルディスカッション  
会議家

滋賀県近江八幡市高齢・障がい生活支援センター担当員

山内 黒保子さん  
バネルディスカッション  
会議家

若狭町教育委員会事務局長

10 | 広報わかさ 2007年1月号

**ゆっくり、やさしく、おだやかに**



勝田 登志子さん  
さんバナリスト  
介護家族  
若狭町法人認知症の人と家族の会副代表理事

認知症というのは、脳の病気。頭  
髪をひいたり、あなたが痛くなつ  
たのじまつない同じ。誰でもなる  
病気なんざよといぐ、周りの人た  
ちの知識、正しい理解があれば、介  
護家族はそんなひづのくないんで  
す。介護もつらいけれど、周りの人  
に恥ずかしいわとか隠してあかん  
ならん。そういう思いでとつとも  
つりい思いをしてきました。今、こ  
れだけ福祉のネットワークだとからん見守りができるにもかかわら  
ず、介護家族は、父母や配偶者を殺して自分も死にだらうて悲痛な声を上げ  
ている。ゆっくり、やさしく、おだやかに、なかなかできない。安心してボケ  
られるボケても安心して住み慣れた家で大人生することがかなえられるまち  
づくり。それが私たちの願いです。ぜひ力を合わせてつくりましょう。

# れる地域がある。

小中学生は、いつも地域の方に  
お世話になっています。そのお返  
しができるといいな。そういうこ  
とを考えることができると、この会議  
に育つてほしいと願い、この会議  
の座長を引き受けました。認知症  
の人たちよつとした失敗とか誤差  
に陥ったときに、その場ですぐに  
サポートできる、声かけができる  
人。迷つた人を見かけたときに、  
すすんで家族などに連絡できる人。医療や行政の役割はもちろんですが、  
現役世代が地域の外で働き、不在の現代に、子どもたちが認知症を理解してい  
れば、少しでもサポートできます。中学生の認知症サポーター養成講座(※)  
は、今後も続けていく。それに加えて、職場体験で、ちょっとした介護技術を  
身に付け、実践でき、いろんなところで役に立つといふと思っていました。

**認知症の人をサポートできる中学生に**



城谷 雅則さん  
さんバナリスト  
若狭町立三方の学校教師  
若狭町認知症ケアからはじめるまちづくり会議運営委員

## 来場者の感想は――

○一行詩の朗読とピアノ…涙が出そうでした。  
(40代女性)

○立派な一行詩を見せいただき、心を打たれました。  
少し心が落ち着き、認知症の義父と接していく自信  
を得ることができました。(50代女性)

○会場に男性の方が多いのに驚きました。自分のため  
ですね。(60代女性)

○認知症一行詩は、次世代の人の優しい心に触れました。  
(40代女性)

○男性、女性ではなく、同じ人間としてお互い助け合  
うことの大切さを知りました。(70代以上女性)

○認知症のことをよく知らないかった私の介護生活のは  
じめは、失敗でした。(60代女性)

○全然介護しなくていい、ほどほどにという言葉を  
聞いて、介護する側の脳の力が抜けるようでした。  
(20代女性)

○夫婦の会話や笑顔が必要だと感じた。(30代男性)

○ひとえ家族が認知症になってしまっても、相手に乗り越えて  
いける自信が持てました。(30代女性)

○「介護=つらい」というイメージが少し変えられた  
気がする。(20代女性)

○「人は一人でいられない」と強く感じました。笑い  
合える相手の存在を一生大切にしたい。(30代女性)

○実際にもう少し優しく接しようと思います。  
(60代女性)

○住民みんなが手をつないで考えないといけないんだ  
ということがすごく伝わってきた。全町民に聞いて  
もらいたかった。(30代女性)

○親に会わってきた経験を思い出し、納得納得と聞き  
入りました。今度は自分の行く道、なんとかして選  
けて通りたい道。日々少しづつ体操やウォーキング、子  
元の仕事を心がけています。(60代女性)

認知症について、詳しく知りたい方はご相談く  
ださい。

### 若狭町認知症ケアからはじめるまちづくり会議

- 健康課 TEL(0770)62-2503
- 三方保健センター TEL(0770)45-1563
- 福祉課 TEL(0770)62-2502
- 三方庁舎サービス室 TEL(0770)45-9103



※認知症を理解し、認知症の人やその家族を支援する「認知症サポーター」をつくるために、認知症についての知識を学ぶ講座。

現在、全国に65,000人、若狭町に1,300人の認知症サポーターが誕生しています。



# まちの話題

## 乗り移った円空

文化講演会「円空」(11/23)

「円空」と題した文化講演会がパレア若狭で開かれました。講師に若狭三方縄文博物館館長で若狭町名誉町民の梅原猛さんを迎えて、江戸時代の仏師・円空の生涯を紹介しました。円空は僧として、民衆を苦しみから救うために約12万体の仏像を彫り続けたとされ、講演では迫力ある仏像をスクリーンに映しながら解説。梅原さんは、「数年前、円空の作品を見てから円空が私に乗り移ってきた。円空は多くの、しかも変化のある仏像を作った彫刻家は日本にいない」と偉大な僧であることを語りました。



円空について語る梅原館長

## 1日も早い拉致問題解決を願う

嶺南地区特定失踪者の真相究明を願う集会(11/25)

北朝鮮に拉致された可能性を否定できない、いわゆる“特定失踪者”的「真相究明を願う集会」がパレア若狭で開かれました。集会では、政府で

拉致問題を担当している中山恭子首相補佐官が講演し、「1日も早い拉致問題解決を実現させるため、政府が一体となって取り組んでいく」と力強く述べ、「拉致された日本人はすべて取り戻すんだという、国民一人ひとりの気持ちが最も強い力になる」と語りました。また、若狭町の特定失踪者・宮内和也さんの父和見さんら3人の家族も壇上に上がり、失踪当時の状況を報告。「皆さんの方をいたさぎながら解決したい」と1日も早い真相究明を訴えました。



拉致問題解決を力強く述べる中山補佐官

※広報紙に「あなた」が写っていましたら後場企画情報課にご連絡ください。写真を差し上げます。(TEL 0770-45-9110)